

—病院理念— 「愛し愛される病院」

—基本指針—

- 1、私たちは、患者様、ご家族に「おもいやり」をもって接します。
- 1、私たちは、地域に信頼され貢献できる医療を提供いたします。
- 1、私たちは、患者様の在宅復帰を支援いたします。
- 1、私たちは、診療記録を正確に記載いたします。
- 1、私たちは、自己研鑽しよりよい病院を目指します。

## 【患者様の権利】

- 1、患者様は医療に関する説明を十分受けた上で、治療を受ける権利又は拒否する権利が有ります
- 2、患者様は医師、医療従事者が患者様の知り得た個人情報を守られる権利が有ります
- 3、患者様は病院、医師を自由に選ぶ権利が有ります
- 4、患者様は安全で適切な医療を平等に受ける権利が有ります
- 5、患者様は診療録の開示を求める権利が有ります

## 新年のごあいさつ

あけましておめでとうございます。

杉並リハビリテーション病院が、101全ベッド回復期リハビリテーション病棟になりまして四度目のお正月を迎えました。

回復期リハビリテーション病棟とは、脳梗塞・脳出血・くも膜下出血などの脳血管疾患や大腿骨頸部骨折などの患者さまに対して、日常生活動作能力の向上などを目的にリハビリテーションを集中して行い、自宅復帰・社会復帰を支援するための病棟です。

自宅に退院された当初は患者さまもご家族もいろいろな不安がおありになることと思います。当院では本年4月から、退院されました患者さまが安全かつ安心して自宅での生活に入られますよう、退院後の一ヶ月間に限りますが、当院スタッフによるご自宅への訪問リハビリテーションをスタートいたします。

「愛し愛される病院」の理念の下、職員一同総力を挙げ、熱い思いで患者さまのリハビリテーションに取り組みます。患者さま、ご家族の皆様ならびに地域から信頼され、地域に貢献する魅力ある病院として更なる発展の年になるよう努めてまいります。

院長 かどわき ちかふさ  
門脇 親房





# ごあいさつ

世界は粥で造られてはいない。堅いものは噛まねばならない。喉がつまるか消化するか、二つの一つだ。(ゲーテ)

東日本大震災、記録的円高、そして13年間勤務してきた勤務先の退職と、公私ともに激動の一年が過ぎ、新しい年を迎えました。皆様はいかがお過ごしでしょうか。

とかく人の世とは不可解な動きをするものでございます。予測不能なこの世の中だからこそ、理解しようとしても歯が立たないものかもしれません。喉がつまる覚悟で、歯が立たないほど「堅いもの」を噛み砕いて消化し、栄養にする気概が必要だと先人も申しております。

私も脳神経外科医として24年間臨床畑で過ごしてまいりましたが、平成24年1月より杉並リハビリテーション病院に勤務することになりました。

新たな職場での新たな外科医の挑戦は、まさに「堅いもの」を噛み砕いて消化することと覚悟しております。

杉並リハビリテーション病院の発展のため精励いたす所存ですので、今後ともよろしく願い申し上げます。



医師 さいわた かずひこ 一彦

12月1日付をもって看護部長代行となりました園田祝美です。当院に就職して4年が経過しました。その間、病棟勤務から地域連携室を経て現在に至ります。

15:1の看護体制という厳しい現場の中、様々な経験を積みました。その中で特に感じたことは多職種共働がいかにか大事かということです。回復期リハビリテーション病棟の役割は①ADL-QOLの向上②寝たきり防止③在宅復帰です。その役割を果たすためには、共通の目標を持ち、その過程を分担していくことだと思えました。

病気はいつはじまり、現在の状態はどうなのか。リハビリがプラトリーになった時、あるいは、入院時から障害が、身体や生活はどのように変化するのか、どのように生きたいのか、どのような支援が必要なのかを多職種で考える事が大切だと感じています。今後も回復期リハビリテーション病棟に対する役割は拡大していくと思います。

現場でおこった問題を現場の視点で解決すること、それと全体でマネージメントしていけるように追力していきたいと思えます。どうぞよろしくお願い致します。



看護部長代行 そのだ のりみ 園田 祝美

## 全日病学会報告 in 沖縄

さる10月29～30日に全日本病院協会の「第53回全日本病院学会」が沖縄県・沖縄コンベンションセンターをメイン会場に開催されました。今回のテーマは『誇れる医療人の集い～沖縄より元気を発信～』。東北地方における一連の地震・津波・原発事故等、未曾有の大震災について、あらゆる立場から検証し復興計画や今後の震災に役立てる、といった内容の演題が多く、非常に緊張感のある学会でありました。

そんな中、今年の当院からの発表は『4年間の院内環境整備の変遷～回復期リハビリテーション専門病院への道のり～』(演者:総務課・大山徳郎)と題し、前身である一般急性期病院から、入院患者様の療養環境等をいかに整え、さらにいかにして患者様満足・職員満足に応えながら回復期リハビリテーション専門病院へ生まれ変わったかを報告しました。

この4年間の激動を乗り越えたその元気を力に変え、被災地の医療の復興に向け少しでも貢献していきたいと強く感じた有意義な学会でした。



総務課 おおやま のりお 大山 徳郎

## 杉並リハの日～内覧会～

10月26日に、主任会主催にて当院で初めての内覧会を行いました。近隣の急性期病院を対象に転院後・回復期リハビリテーションというものは、どのようにして行われ退院していくのかを説明し、実際のリハビリ入院生活を見ていただきました。

37名の看護師・リハビリセラピスト・MSWの参加があり、転院後元気にリハビリを行っている患者様の姿をみて、感動されたり患者様に転院先の紹介をするのに役に立ったというご意見を頂きました。

アンケートによる当院の印象に関する項目で、見学前は「普通」だったが、見学後は「大変よい」に向上したという意見が多数あり、内覧会を開催して良かったと思えました。今後は当院から退院したあとのケアマネージャーや老健を対象に行き、急性期から在宅までシームレスな連携を図り患者様が地域で安心した在宅生活を送れるよう取り組んでいきたいと思えます。



看護師 くらた あけみ 倉田 明美



# リハ通信～ST集団リハ～

当院ではSTによる集団訓練を週に1～2回行っています。集団訓練の目的としては、失語症訓練、認知症予防、発声練習、動作の中での注意訓練など様々ありますが、その他にも以下のような目的や効果があります。

- ・日中の活動により、メリハリのある1日を過ごしてもらう
- ・交流の中での自然なコミュニケーションを引き出す
- ・他者と協力することで関係性を築く
- ・自分以外の患者が頑張っている様子を見て励みにする



病院での生活は季節感や時間の経過を感じづらく、単調な生活になりがちです。そのため、日付や少し前の出来事を忘れやすくなったり、決まった状況でしか話さないようになってしまう。集団でリハビリをすることで、共感意識を持ち、他者に励まされ励ますうちに、普段から自分以外を気遣うという社会性にもつながると考えています。



## <実際のプログラムの一例>

1. 自己紹介:「私の名前は〇〇〇です」と名前を言い、「〇〇〇さーん！」と他の参加者から名前を呼んでもらいます。普段は声が小さい患者様の元気な「はーい！」という声が聞こえます。
2. 日付・時間の確認:今日は何日?とSTが質問し、皆さんに思い出してもらいます。有名人の生まれた日や、歴史的な事件のあった日について話し合ってもらうこともあります。
3. 座ってできる体操:耳の遠い参加者の方などには周りの人に合わせて実施しやすい内容です。なるべく声を出しながら「イーチ、ニイ…」と元気に行います。
4. 発声練習・早口言葉など:口を動かす機会を作り、動きを滑らかに、唾液の分泌も良くなります。懐かしいことわざなどを用いることもあります。
5. 頭の体操:「箱の中身は何でしょう?」参加者の一人にヒントを出してもらい、その他の人に考えてもらうこともあります。ヒントの出し方に性格が表れて笑いを誘うことも。
6. 歌唱・唄体操:懐かしい唄は、昔のことを思い出して脳を活性化します。手が不自由な方には隣の方が歌詞の紙を差し出してあげることもあります。

言語聴覚士 渡辺 美沙子

## 第47回AMG大運動会

毎年恒例行事である、上尾中央医科グループ全病院・老健・関連施設が集まる大運動会が10月にありました。業務の関係で全員揃っての練習もあまりできず、不安で迎えた本番。普段から他職種協働、チーム連携を重点にしている当院はなんと！始まる前の不安はどこに??見事ブロック優勝を果たしました。

今後も連携プレーを大事にしていきたいと思います。



## x'mas Party

平成23年12月21日(水)に当院の患者様対象にクリスマス会を開催しました。内容はキャンドルサービスと職員によるフルートの合奏・トーンチャイム、患者様と一緒に合唱を行いました。

患者様も患者様の笑顔溢れる会になりました。

クリスマス会後はサンタが病室を回り、患者様と写真撮影。その写真は後日、職員のメッセージが書いてあるクリスマスカードに添えてお渡ししました。



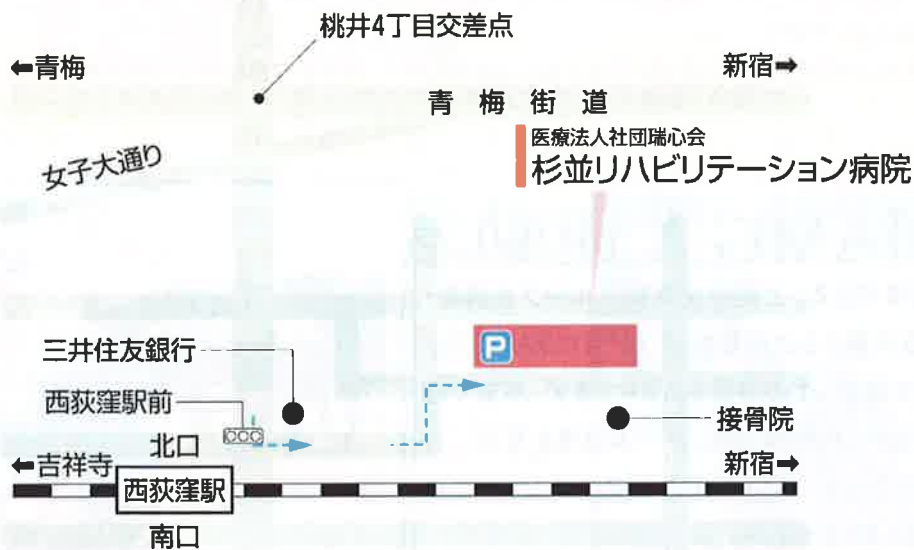
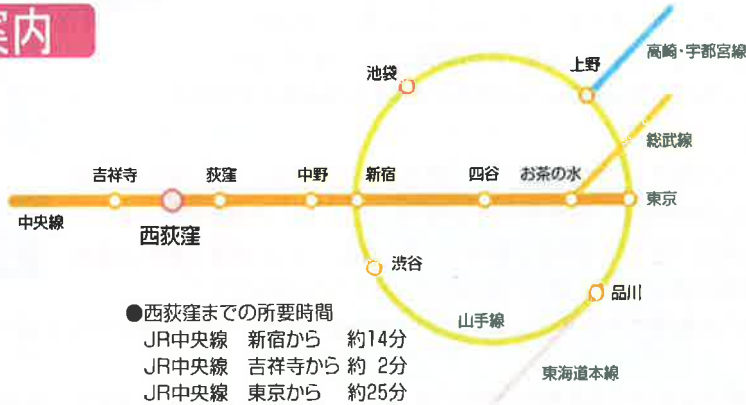
## ～当院の現況～

	平成 23 年 10 月	平成 23 年 11 月	平成 23 年 12 月
稼働率	96.0%	93.2%	96.8%
入院延べ患者数	3007 人	2823 人	3030 人
在宅復帰率(直近 3 ヶ月:10~12 月)	-----		78.9%
重症患者割合(直近 6 ヶ月:7~12 月)	-----		27.6%
重症患者回復病棟改善割合(直近 3 ヶ月:10~12 月)	-----		53.6%

\*重症患者・・・日常生活機能評価で10点以上の新規入院患者の割合

\*重症患者回復病棟改善・・・重症患者のうち3点以上の者が改善している割合

## 交通のご案内



- JR中央線・総武線 西荻窪駅下車 北口 徒歩2分
- 青梅街道 桃井4丁目交差点より西荻窪駅方向約1km  
西荻窪駅前信号を左(一方通行)

## 病院概要

開院	昭和43年10月
理事長	中村 康彦
院長	門脇 親房
病床数	101床(4床室・個室)
診療科目	内科・リハビリテーション科
診療時間	毎週 月・火・水・木・金 9:00~12:30
発行責任者	門脇 親房
発行	杉並リハビリテーション病院 広報委員会

## 医療法人社団 瑞心会 杉並リハビリテーション病院

〒167-0042 東京都杉並区西荻北2-5-5  
 TEL.03-3396-3181(代) FAX.03-3396-3186(代)  
<http://suginami-reha-tokyo.jp/>